

二次元ぷち文庫

2D PETIT POCKET NOVELS

試し読み版

新居佑

表紙／高瀬むう



エンゼル
ANGEL VENUS
ヴァーナス
外伝

当ファイルは、モバイル二次元ドリームにて配信された
『エンゼルヴィーナス外伝』
に基づいて作成しております。

※本作は二次元ドリームノベルズ『エンゼルヴィーナス 失墜の天使』（キルタイムコミュニケーション・刊）、二次元ぶち文庫『エンゼルヴィーナス ANOTHER 牝豚へと堕ちた天使』（各種ダウンロードサイト配信中）とあわせてお読みいただけますと、よりお楽しみいただけます。

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。



エンゼル
ANGEL VENUS
ヴィーナス

外伝

新居佑

表紙 / 高瀬むう

登場人物紹介

Characters

なる み あいり

成美愛理

優奈の親友である、聖ウェネス学園の生徒会長。普段はおっとりした清楚なお嬢様タイプだが、悪を前にしてもひるまない高貴な勇気の持ち主。エンゼルマリンに変身する。女幹部ダイアナの手に落ち、過酷な快感調教を受けることに。

かみぞの ゆう な

神園優奈

聖ウェネス学園に通う少女。運動神経が抜群で、部活の最強助っ人要員として学園内で有名。やや直情的だが、仲間想いで優しい性格。エンゼルスイートに変身する。親友であり、相棒でもある愛理の身を案じている。

「さあ、さっさと歩きなさい……どうエンゼルマリン、今の気分は？ ……いいえ、牝豚
といったほうがいいかしら？ うふふ」

「くっ、あふ……んくううっ」

異星からの侵略者ラーマから、人々の平和な笑顔を守るために、正義の変身ヒロイン・
エンゼルヴィーナスの一人、エンゼルマリンとして闘ってきた成美愛理。

彼女はその凜として可憐な美貌を、悔しさと屈辱、なにより若く豊満な女体の内側から
ひっきりなしに発せられる熱い情欲によつて、切なく歪めていた。

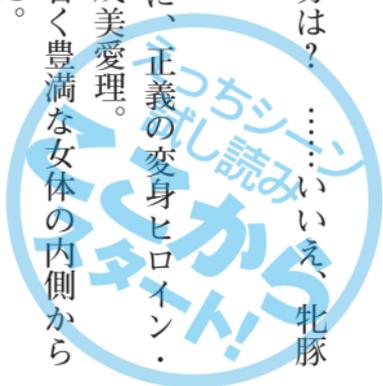
「ふり、ふううっ。ひ、ひいわけ……あああつ。く、ううっ！」

（ダ、ダイアナ……っ！ くっ、こんな屈辱……絶対に許さな……っ。ああ……身体が
敏感になりすぎておかしく……あふううっ！）

可憐な唇に嵌められた黒い口輪が、愛理の抵抗の言葉を、淫らで情けないものへと墮落
させる。

ラーマの女幹部ダイアナの姦計に捕らえられ、特濃媚薬による屈辱の中での処女喪失、
そして初めての快楽絶頂を覚えこまされた肢体は、その淫らな肉体改造の末に、絶頂抑制
剤を打ち込まれ、快楽は感じるが絶対にイケない中、これまで触手たちに延々と一週間に
わたつて輪姦され続けてきた。

「ふうう……ひぐ、あああ……んんっっ」



一週間もの無慈悲な焦らし責めによって、悪を倒す精気に溢れていた肉体は、平和を守るエンゼルマリンのものとは思えないほど、過敏でエロティックな文字通りの「媚体」へと変貌させられていた。

サディステイックな女幹部の鞭によつて、一部を残して淫らに引き裂かれたブルーの変身スーツの間から覗く若々しい二の腕や太腿は、下品にペロペロと舐めしゃぶり尽くしたいほどムチュムチに張り詰めている。

恥辱極まる射乳体質へと改造させられた二つの柔らかい巨乳は、熟しきつた甘い果実のように魅惑的な色気を放っており、きつく尖りきつた小指大ほどの乳首は、今にも淫母乳を噴き出さんばかりに、いやらしくヒクヒクと震えている。

「いくら悔しがっても、本当の牝豚みたいよ？ ほらあ、いい具合に艶っぽくなって。ねえ？」

サドっぽく笑うダイアナの長い指先が、イケないまま快樂だけが張り詰めた、愛理の柔らかいお尻をつつと撫でる。

「んあう！ ふう、ふ〜つつ！ はあはあ、んんっ、く……あああ……っ」

（こ、この……おおつ。ア、アソコ……オマ○コが……おっぱい、乳首……があつ。悔しいのに……ジンジン疼いて、蕩け……ちゃん、そう……く、ううっ）

指先で、しかもお尻を撫でられただけなのに、女の快樂の中枢である乳首と陰唇の淫熱

が爆発的に跳ね上がる。

閉じることの許されない惨めな唇から、正義の変身ヒロインのものとは思えないトロリとした唾液の糸が、いやらしく地面に垂れ落ちてくる。

「あはっ、まるで全身が剥き身のクリトリスみたいねえ。一週間もイケずに感じまくつてると、無敵のエンゼルヴィーナスでもそうなたっちゃうのかしら」

「ふう〜ふう〜つ。うう。くつつ」

抵抗の言葉を口にしたいが、唇に嵌められた淫靡な口枷が、それを許してくれない。

悔しくてたまらないが、媚薬漬けと焦らし責めを受け続けている愛理の身体は、ダイアナの比喩通り、身体中が性感帯と言っても過言ではない状態にまで肉改造され、強制的な欲情状態に高められている。

「あ……ふ、ああ……。く、ううつ」

（イ、イケないのが……こんなに辛いなん、てえ……。ああ、そんなこと考えてはダメ。くうつ、耐えるのよ愛理っ。ダイアナの思い通りなんか……。ああ、うつ。あ……。ああ）

豚のように四つんばいを強いられている、青いコスチュームのままの豊満な肢体が、屈辱と快楽でブルツと小さく震える。

少しでも気を抜けば、媚薬によって高められた官能の魔力に飲み込まれそうになるのを、正義のヒロインとしての譲れない矜持で、ムッチリした牝肉をビクつかせながら耐え凌ぐ。

「うふふ、エンゼルマリンを躡けるお散歩はまだまだ始まったばかり。さつさと歩かないと、この恥ずかしい格好。本当にみんなに晒しちゃうわよ？」

「んんっ!? んぐつつ、ん……ふううつ。んああつつ！」

ダイアナの言葉を受け、身体中で煮え滾る快感のマグマを、鍛え抜いた精神力で抑えつけて、褐色の魔女が持ち、愛理につけられた首輪から伸びる鎖に促されるまま、冷たい床に置かれた両手と両膝を上げて、本当の豚のように歩いていく。

（く、悔しすぎるわ……ああつ。で、でも今は従うしか……くうつつ！）

密室での放置プレイから解放された愛理は、魔女ダイアナの次なる卑猥な調教責めを強いられていた。

愛理がとらされている格好は、両手と両膝を地面につけた屈辱の四つんばい牝豚スタイルだ。

媚薬に侵され、牝の情欲の湿り気が収まらないピンク色の陰唇には、一週間ずつと膣穴を責め続けていた触手ペニスの代わりに、半透明なスライム状の生体バイブが突きこまれている。

青い変身スーツを無残に破り取られ、タウンつと露になつていいるメロンのような二つの豊乳には、小指サイズほどにまで勃起しきつた乳首を苛め抜く赤黒い触手でできたニップル用のオナホールである、こちらも触手肉リングが嵌められている。

いまだ絶頂抑制魔薬がバイブとリングから染み出している中、両乳首、そして陰唇の三つの快楽淫具は、これまでの触手たちの破壊的に強烈な突きこみ、吸着ではなく、決して快感に屈服しないエンゼルマリンこと愛理の強靱な心をゆっくり蕩けさせるように、ジュクジュクねつとりと小刻みな振動を送り込まれている。

「ふううつ。くつ、んんつつ……く、ふううつ！」

（く、屈しちゃだめよ愛理……！　こんな辱めなんかエンゼルヴィーナスは絶対に負けないっ。ああ、でも……くうつ！）

閉じられない唇の代わりに、まだ堕ちきっていない気高い心で、悔しさを噛み締める。この一週間閉じ込められていた廃れた病院の一室から非情にも、今は愛理が通う聖ウエネス学園の廊下を、従順な牝犬のように散歩させられている。

学園の生徒会長である愛理にとって、被虐的なエロスに満ちた破れかけのスーツに、牝犬調教具を淫猥に装着されたこの格好で……しかも仇敵である女幹部ダイアナに首輪に繋がれたリードまで持たれている現状は、たまらない屈辱だった。

（く、悔しいけど……まだ夜なら……。誰もいない夜中の学園なら……なのにつつ！）

恥辱の学園散歩を告げられたとき、てつきり深夜の誰もいない校舎を連れまわされるのだと思っていた。

しかし、変身して青くなった瞳の先には、真冬でも煌々と輝くまぶしい真昼の太陽が、

はつきりと映っている。それに――。

「あ、先生。こんにちは」

「はい、こんにちは。今日も元気ね」

明るい声で挨拶してくる生徒に、学園の保健医に魔法で変身したダイアナが、愛想よくニコリと微笑み返す。

（こ、こないで……。こんなところで……。こんな女になんて話しかけちゃだめよおつ）

学園の廊下……。時間は平日の昼休み。もつとも人通りが多い時間、そして場所に、愛理はエンゼルマリンに変身した敗北姿のまま、犬歩きを強要されていた。

「なに、この牝豚っ。なんで学園にいるのよ？」

「マジかよ。にしても豚だけに、イイ肉つきだな。むしろぶりつきたくなるぜ」

「んふうっ、ふうふうっ……。んんっ、ううっっ！」

（は、恥ずかしい……。ああ、みんながこんな姿の私を見て、るうっ。頭がおかしくなりそうよ……。っ。くっ、ああっ……。なんで身体が熱くなる……。のよおっ！）

周囲を歩く同年代の男女生徒の気配、そして劣情と侮蔑をもって向けられる幾多の視線に、乙女の純粹な心がきつく痛み、媚薬漬けの身体がビクビクと性的な痙攣を起こし続ける。暖房もきいていない冬の廊下だというのに、寒さを感じるどころか、身体中が茹っっているのではないかと思うくらい、清純な正義のヒロインに似つかわしくない牝臭い大粒の汗

が全身からジワジワと滲み出てきて、ボロボロになった卑猥スーツとムチムチに張り詰めた扇情的な若い肢体を熱くさせる。

生徒会長として、いつも毅然と凜とした表情を崩さなかつた美貌が、想像を遙かに超えたたまらない羞恥と、身体内を蕩けさせるような快感によつて、頬を真っ赤に染め上げ、悔しそうに辛そうに眉根を垂れ下げた淫靡な顔を、通りすぎる生徒たちとダイアナに見せ付けている。

「ふう……ふうんつつ。く、ううつつ」

学園に連れられてきてから、すでに十分あまりが経過している中、愛理の誇り高い正義の心が、魔女から与えられた信じられない屈辱によつて狂いそうになる。

（ほおら、エンゼルマリリン。あなたの大切な生徒たちの前で、こんな変態な姿を晒す気分はどう？ 悔しい？ 悲しい？ どうかかなりそう？）

「お、くつつ……ふ、ぐううんつつ！」

（こ、これは全部あなたが……くう!? んっ、あはあつつ！）

ヴヴツツ。ヴヴヴヴツツ！

脳内に直接伝えられるダイアナの見下しきつた言葉に、眉を吊り上げて反論しようとするが、ダイアナのサディスティックな意志を受け、いきなり強くなった股間のスライムバンプと、両胸の肉リングの刺激によつて、凜とした表情を作る前に、弱々しくも淫猥な淫

靡な美貌を晒してしまう。

（ああ、バイ、ブウウツ。く、悔しいのにい。だめ……つ。く、あはああ……つっ！）

床と平行になったお尻のすっかり艶っぽくなつた柔らかそうな媚肉が、ブルブルと切なげに揺れながら、徐々に上へ上へと角度をきつくしていく。

同時に両膝を冷たい床につけた、こちらも艶かしい両脚が、すぐ上の股間の牝穴から迸る桃色の快感の波に、理性という名の防壁を削られる。

まろみがあるお尻の上昇角に比例するように、ジワジワといやらしいハの字型に開いていく両脚。

ただ両腕だけが、変身ヒロインの誇りを必死の思いで束ねて繋いで、グンツと突つ張つたまま両胸から響く悦楽の旋律に抵抗し続けている。

（く、うう……私は生徒会長で、エンゼルマリンなのに……つ。みんなの前でこれ以上醜態を晒すわけには……くうつ、絶対にいかない、のにいいっ！）

お昼の休憩時間、勉学の集中から解放された生徒たちの往復で騒がしい廊下のど真ん中に、愛理の正体自体は見えていないとはいえ、まるで淫らな見世物のように首輪を繋がれ、発情しきりの恥部に装着された淫具によつて、浅ましく悶えてしまう敗北ヒロイン。

「はあはあ……ふ、ああつっ」

（だ、だめ……オマ○コと胸だけじゃなくて、お、お尻の中まで熱く……ああ、こんなの

嘘、よおおっ！)

ただでさえ口輪を嵌められ、装着された首輪から伸びる不可視の鎖によってダイアナに牝豚扱いを受けている愛理を決定的に悩ませているのが、突き出されたお尻に開いた肛門に挿入された一本の巨大尻尾型バイブだ。

それは文字通り豚の尻尾のような丸まった形をしている生体バイブだった。

このバイブは、愛理・エンゼルマリンの力の源であるエンゼルパワー、変身中でも正体を他人に知られないための特殊フィールドを張ってくれている不思議な力を、ダイアナの悪しき魔力によってお尻を通して吸収し、愛理の……エンゼルマリンの正体を生徒たちから遮蔽させる役割を持っている。

生徒たちに見えているのは、まぎれもない敗北姿のエンゼルマリンだが、最終的な記憶の認識は、ダイアナが変身した保健医が飼う一匹のかわいらしい牝豚だ。

生徒たちからは、女穴に刺さった極太生体バイブも視認でき、口輪と首輪を嵌められ、悔しそうにしながらも官能に酔いしれそうになっている美貌も、しつかりと見られている。エンゼルマリンが敗れたことも、その正体も現状も知られることはない。しかし、自由と純潔を奪われ、常時発情しっぱなしの牝豚扱いを受けていることを、守るべき生徒たちの衆目に晒しているという事実は変わらない。

(お尻も、オマ○コも、乳首のバイブも見られてるわ。こんな奴隷みたいな格好で、感じ

てるところを……ああ、学園のみんなに……。ああ、お尻いつ！)

悪の女幹部に敗れた正義のヒロインの牝奴隷姿を見世物にされ、愛理のエンゼルヴィーナスとしてのプライドがスタスタにされていく。

そしてさらに、バイブ全体から染み出す女体改造媚薬によつて、愛理のお尻はただの排泄器官ではなく、淫靡な肉欲発生器官へと改造させられている最中だった。

(あ、熱いつつ！ お尻つ、お尻が……。ああつ。どうしようもなく疼……。くうつ！)

ダイアナに引つ張られるままに、一步、また一步と四足の歩みを踏み出すたびに、原液のままの強力媚薬がバイブから滲み出し、腸内の隅々に染み込んでくる。

初め、女性の拳ほどもある巨大バイブを無理やり肛門にくわえ込まれたときは、腸道が裂ける痛みと、自身の汚い部分を好き放題いじられる恥ずかしさしか感じなかった。

だが、それからたった十数分しかたっていない今は、バイブのウネウネとした前後左右のいやらしい蠢動に、ギチギチのはずの腸壁が確かな甘い……。膣や胸と同じ性的な快感を発し始めている。

「なんだあ、この牝豚。でかい尻をいやらしそうに震わせてやがるぜ」

「見ろよ、後ろの穴だけじゃなく、前の穴もいやらしそうに動いてるぞ。もしかしてこの牝豚、俺たちに見られて、両方の穴で感じてるんですかね、先生？」

「うふ、そうかもね。なにせ私の豚ちゃんは、気が強そうに見えてDMだから。お尻で感

じるくらいわけもないかもねえ」

「ドMですか？ 牝豚にびったりね、あははっ」

ダイアナの悪意ある会話運びと淫靡な場の雰囲気によって、普段は温厚なはずの生徒たちが、この年代特有の内に秘める情欲を、隠そうともせず露にしてくる。

いつもの……媚薬改造を受けていないときの愛理なら、こんな会話は怒りの炎を焚きつけるだけの逆効果にしかない。

しかし母乳絶頂するようになった胸や極太肉棒を易々と受け入れるようになってしまった膣と同じように、ネバついた魔性の媚薬液によって着々と進行していくケツ穴改造を施されている今は違う。

（い、言わないで。へ、変な気分になっちゃうから……ああ、牝豚……ドM……ち、違うわ、私はエンゼルヴィーナス。ラーマを倒す正義の……おひいっ！）

「んんっつ、んぐっ！ く、ふううんっつ!!」

これまで排泄のときですらさほど意識してこなかった腸の動きが、今はやけにはつきりと感じ取れてしまう。

（お、お尻に……オマ○コも熱いっ！ 胸だつて……ずつとイ、イク寸前で……お、おかしくなりそうなのよおっ！）

いたるところに痛々しい切れ込みが入ったスカートから覗く、破廉恥なほどに艶がかっ

た美尻にきつく食い込んだ変身スーツのハイレグ部分は、生体パイプを突きこまれた陰唇を中心に、わずかな粘り気を帯びた牝の発情汁でジワリと濡れ湿っている。

可憐な変身ヒロインの穢れないヴァージンが、魔女ダイアナによって奪われてから立て続けに味わわされた、牝の快樂絶頂の記憶が、媚薬漬けにされたムチムチの肉体を、今なおトロトロに炙り続けている。

「ふう〜、ふう〜つつつ！ おおおつ」

たまらない絶頂寸止めと擬似衆人環視の中、気を抜けば今にも蕩けてしまいそうな青い瞳で、上を仰ぎ見れば、女医に変身したダイアナが、切れ長の瞳をニヤリと細め、ドッグスタイルの愛理に、決定的な主従関係をわからせてくる。

長い拘束の間に、体力を消耗しきった今の愛理に、ダイアナに抗う術は残っていない。もしダイアナが正体を隠すことをやめ、魔女としての姿と……そして自分の牝豚としての現状を生徒たちの前に露にしたとしたら……？

「おおつ、ふ、ぐううつ……ああ、はあ……はああつ」

少し想像しただけで、背筋がキュンツと跳ね、青い瞳が悦楽にまどろみそうになる。

絶頂寸止めに、肉體改造と擬似衆人環視、いくら愛理の精神が強靱でも、度重なる淫らな責めに、もう頭がおかしくなってしまうそうだった。

（み、見られたらどうにかなっちゃわつ。こんなエッチな格好、絶対に見られたくない

わよっ！)

エンゼルマリンの露出変態調教の実態がバレれば、その情報は、学園はおろか、瞬く間に全世界中に拡散するだろう。

もしそうなれば、青い変身ヒロインの誇りは粉々に砕け散ってしまうかもしれない。

それにパートナーのエンゼルスイートこと、親友の神園優奈にまで知られてしまえば……。

神園優奈。愛理の大切な親友にして、自分がこうして囚われ、辱められていることを知らず、ただ一途に自分の帰りを待っていてくれる純真な少女――。

(はあ、はああ……ゆ、優奈……あつ。そうよ、負けないわ。こんな卑劣な手段に、エンゼルヴィーナスは……決して屈しない！)

どんな理知的な女でも色狂いにするほどの魔媚薬を投与されてから、焦らし責めを受け続けてきた間、何度も快樂に溺れかけた。今だつてそうだ。

けれどそのたびに、非道な侵略者ラーマから共に平和を守る大切なパートナー・エンゼルスイートこと、神園優奈の素敵な顔が頭に浮かんで、堕ちそうな心を奮い立たせてきた。(そうよ、優奈のため……みんなの未来のためにも……私は負けない。こんな快樂、耐え抜いてみせるわっ！)

普段通う学園内でも、決して屈しない強い意志で、みんなからの信頼を集める生徒会長

を務めてきた。その心の強さはエンゼルマリンへと変身しても変わらない。

大切なパートナーと、守りたい世界のために、卑劣な快樂責めなどに敗北するわけにはいかない。

「イイ目ねえ。まだ心は折れてない……つてことかしら？ ふふ、そうこなくちゃ。生意気な子猫ちゃんは、すっかり快樂で寝けてあげないと。そう、自分から快樂を欲する牝豚ヒロインにね」

ダイアナが樂しそうに瞳を細めると、愛理の首筋の首輪に繋がる不可視の鎖がジャラリと、冷たい金属音を奏でる。

「ふ、くうっ！ んんっつっ!!」

（だ、誰が牝豚なんか……こ、こんな破廉恥な散歩が終われば、絶対にあなたを倒すわ！ あおうっ、ぜ、絶対につっ!!）

悪の組織ラーマから世界を救うことを誓った、正義の変身ヒロイン・エンゼルヴィーナスが負けてたまるものか。

「ふふ……：：：そうよね。エンゼルマリンは正義のヒロイン。間違っても、私の肉ペット、なんかじゃないものねえ？ ほおら、それをみんなの前で証明してみせなさい？」

優しい保健医の姿だけを真似るだけでは隠せない、魔女らしい妖艶な笑みをダイアナが浮かべ、パチンツと、細く長い指を軽く鳴らした。

(くっ、なにをされようと私は絶対に屈しないわよっ！)

愛理が、女幹部に立ち向かう決意を新たにしたそのとき、お尻に挿入されたバイブの先端がグパアツと、不気味に開くのを、敏感になった腸肉で感じ取った。

ドビュオオツツ！ ビュパアアアアアツツツ！！

「ひゃ、ひゃひつつ!? んふうつつつつ!!」

まるで中出し射精で放たれた特濃ザーメンのような大量の媚薬が、愛理の不浄の穴に発射される。

精液よりもさらに粘着質で、異常とも思える熱量を備えた魔性の媚薬粘液が、腸道だけでなく、その奥のS字結腸にいたるまでビチヨビチヨと埋め尽くし、数秒後には無敵の変身ヒロインでも決して鍛えようのない肉の内部にジワジワと吸収されていってしまう。

(な、なによこれっ!! お尻、お尻っ!! 私のお尻が……あっ!!)

「ふああ、んひいいいいっ!!」

我慢していた悩ましい牝の声が、口輪の奥から放たれてしまう。

圧倒的に濃い、しかも直腸からあふれんばかりの大量の媚薬液によって、ただの消化・排泄器官だったお尻と直腸が、女を狂わす恥辱の牝穴へと一気に改造させられていくのが、憎憎しいほどにわかる。

(か、変わってる……変えられてるわ……お尻、穴あああつ。オマ○コと同じ感じ……こ

んな、こんなのもってっ!!」

人には見せたくない、乙女の恥じらいの場所で快感を覚えてしまう身体に変貌していることに、胸や膣を肉改造されたとき以上の、たまらない羞恥が愛理の理性を焼き焦がす。

ヴヴヴツツツ、ヴヴヴヴヴツツツツ!!

傷心の愛理を追い詰めるように、媚薬を吐き出したばかりの半透明の生体バイブが、滲み出す腸液と発射された媚薬をグチョグチョと激しく攪拌する。

「んふうっ、んんんっっ!! おおおっ!!」

無様な四つんばいの獣姿勢のまま、青いスーツを装着した変身ヒロインが、お尻から湧くたまらない快感の爆発に悶え啼く。

突き上げたお尻がさらに高く掲げられていき、凜とした表情に戻りかけた美貌が、それまで以上の官能色に染まっていく。

破れかけの変身スーツに包まれた媚肉が、お尻の熱さに比例するように、目に見えてビクビクと痙攣し始める。

（おおっ、お尻っっ!! お尻っっ!! お尻がああああっ!!）

腸道にあふれるくらい注ぎ込まれた特濃媚薬は、ほんの一分ほどの間に、女を狂わす恥辱成分の一滴にいたるまで、麗しい青の変身ヒロインの媚肉へと浸透していた。

血色のさらによくなった桜色の直腸を今支配しているのは、誇り高いエンゼルマリンの

プライドではなく、淫靡な香りを撒き散らしながら、少女の排泄器官をジューブジューブと、いじらしくかき回している豚の尻尾型の媚薬バイブだけだ。

「うおっ、今度はケツ穴いじられて感じてやがるぜっ！」

「牝豚もここまでくると、終わってるよな。だってケツだぜ、ケツ！」

「うわっ、こつち来んじゃねえよっ！ 尻穴で感じる変態牝豚がつっ！」

生徒たちのありのままの思いを口にした、心ない侮蔑の言葉が胸を突く。

痛い。悔しい。情けない。

悪を倒す青いスーツを着た愛理の心が、恥辱の色に染められていく。

「うふふ、素敵なプレゼントでしょう？ 乳首とマ○コだけじゃなく、お尻でもイけるよ
うになるなんて、普通の女じゃ絶対に味わえない幸せよ。まあ、エンゼルヴィーナスの
人がケツ穴で感じる露出狂だっけ知ったら、あなたのパートナーはどう思うかしらねえ？」

「んんっっ!!」

ダイアナの含み笑いに、愛理は、あることゝに思い当たり、戦慄した。

絶頂抑制薬を投与されたのは、膣と乳首の二箇所だけだ。お尻のバイブは愛理の存在を
周囲から隠すためのもので、絶頂を抑える役割はない。つまり――。

「気づいたみたいねえ。そうよ。あなた、お尻では、イけるの。そしてエンゼルパワー
を逆利用したこのバイブの能力も、あなたがお尻でイけば、消える仕組みなのよ」

この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行

株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル

TEL03-3555-3431 (販売) / FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

<http://ktcom.jp/>